

問1 茶道における「一期一会」の精神を、その都度の茶事を一生に一度限りのものと覚悟して自己の最善を尽くすことと捉え、さらにこの態度を人生全般に広げて、各瞬間を一生に一度の覚悟で全力で生きることにより、無常を生命肯定の契機へと変えて充実した生が実現されると説いた、昭和期の日本の哲学者は誰か。（2020年 全国公立入試 類似）

1. 久松真一 2. 西谷啓治 3. 九鬼周造 4. 和辻哲郎

問2 日本の思想史において、内面的な心のあり方と外面的な実践行為は不可分であると考えられてきた。特に幕末の志士たちの行動指針となり、真の知識は必ず主体的・実践的な行動を伴うものであるとする、陽明学の根本的な命題を何とよいか。（2019年 全国公立入試 類似）

1. 知行合一 2. 万物一体 3. 居敬窮理 4. 格物致知

問3 日本の風土や思想の特質を追究したある思想家は、日本神話における神々のあり方に注目した。彼は、日本神話には唯一絶対の究極神は存在せず、最も尊貴な神とされる太陽神であっても、みずから他の神を祀るという主客の二重性をもった存在として描かれていると指摘した。この指摘を行った、著書『風土』や『倫理学』などで知られる近代日本の思想家は誰か。（2016年 全国公立入試 類似）

1. 中江兆民 2. 和辻哲郎 3. 内村鑑三 4. 吉野作造

問4 親鸞が唱えた思想で、自力で善を行えると思いついでいる「善人」よりも、自らの煩惱の深さを自覚し自力では救われないと自覚している「悪人」こそが、阿弥陀仏の他力救済の対象（正機）であるとする考え方を何とよいか。（2011年 全国公立入試 類似）

1. 神本仏迹説 2. 悪人正機説 3. 他力本願説 4. 本地垂迹説

問5 江戸中期の儒学者である荻生徂徠は、人間は生まれつき多様であり、朱子学のように個人の内面的な修養によって道徳を完成させることは困難であると考えた。彼は、社会の秩序を維持し天下を安んじるためには、古代中国の聖人が人為的に定めた礼楽刑政の制度に従うべきであると主張した。この、社会を治めるための具体的な制度や規範を何と呼ぶか。（2007年 全国公立入試 類似）

1. 古文辞学 2. 知行合一 3. 先王の道 4. 格物致知

問6 徳川家康をはじめとする初期の将軍に仕え、幕府の儀礼や制度の整備に深く関わった朱子学者である。自己の慎みを保つ「持敬」を重視し、天と地が分かれているように人間社会にも君臣や父子などの厳然たる身分秩序が存在することは自然の理であると説き、武家支配の正当性を理論づけた人物は誰か。（2021年 全国公立入試 類似）

1. 頼山陽 2. 室鳩巢 3. 林羅山 4. 林鷲峰

問7 日本の民俗学を創始した思想家は、文字による記録に残されない無名の庶民の生活や伝承に着目した。彼が、共同体の中で伝統的な生活様式や信仰を維持してきたこのような人々を指して用いた、日本人の基層文化を解き明かすための鍵となる概念は何か。（2015年 全国公立入試 類似）

1. 国体 2. 常民 3. 平民 4. 臣民

問8 江戸時代初期の思想家である山崎闇斎が、朱子学の「敬」の倫理を中核に据え、儒学と神道を融合させることで創始した、君臣関係の絶対性を説き、のちの尊王思想の形成に大きな影響を与えた神道説は何か。（2017年 全国公立入試 類似）

1. 復古神道 2. 垂加神道 3. 理学神道 4. 吉川神道

問9 朱子学が説く「理」を個人の主観的な思弁にすぎないと批判し、社会を治めるための具体的な制度や規範である「道」は、古代中国の先王が制作したものであると主張して、古典の言葉を直接読み解く古文辞学を提唱した人物は誰か。（2013年 全国公立入試 類似）

1. 新井白石 2. 荻生徂徠 3. 伊藤仁斎 4. 貝原益軒

答え合わせ・解説 No.1

問1	答え 1 久松真一	茶道における「一期一会」の精神を哲学的に探究し、茶事を一生に一度きりの機会として臨む態度を人生全般に拡張することを提唱した。この思想により、生老病死などの無常を単なる消極的な諦念や絶望として受け止めるのではなく、今この瞬間を全力で生きるという生命肯定の契機へと転化させ、主体的に充実した生を実現できると主張した。
問2	答え 1 知行合一	陽明学の根本命題である「知行合一」は、知ること（知識・認識）と行うこと（実践・行為）は表裏一体であり、真の知識は必ず行動を伴うという考え方である。この思想は、幕末の志士たちが自らの至誠を行動によって示そうとする実践的な姿勢に強い影響を与えた。
問3	答え 2 和辻哲郎	日本の風土や文化の特質を考察したこの思想家は、日本神話における神々の関係性について、絶対的な超越者が存在するのではなく、最も尊貴な神である天照大神自身が他の神を祀るという「主客の二重性」を有している点に注目した。これは、絶対的な一神教とは異なる、日本の伝統的な神観念の特質を説明したものである。
問4	答え 2 悪人正機説	親鸞は、自力で善を修めようとする「善人」は阿弥陀仏の他力を頼む心が薄いのに対し、自らの煩惱の深さを自覚して自力では救われないと自覚している「悪人」こそが、他力にすがるほかないため、阿弥陀仏の救済の主たる対象（正機）であると説いた。この思想を悪人正機説と呼ぶ。
問5	答え 3 先王の道	荻生徂徠は古文辞学を提唱し、朱子学の道德主義的なアプローチを批判した。彼は、人間は生まれつきの性質が異なり、内面的な修養だけで社会秩序を保つことはできないと考え、古代中国の聖人が天下を安んじるために人為的に制作した制度や規範（礼楽刑政）に従うべきだと主張した。これを「先王の道」と呼ぶ。
問6	答え 3 林羅山	徳川家康らに仕えた朱子学者の林羅山は、自己の慎みを保つ「持敬」や、万物の本質を究める「窮理」を重視した。彼は、天地自然に上下があるように人間社会にも君臣や父子などの厳然たる身分秩序が存在することは自然の理（上下定分の理）であり、それが幕府の法度や社会の礼儀として現れるべきであると主張して、江戸幕府による支配を正当化した。
問7	答え 2 常民	柳田国男は、文字記録に残る支配層の歴史ではなく、文字を持たない無名の庶民の日常生活や年中行事、信仰の中にこそ、日本人の固有の信仰や文化の基層があると考えた。このような無名の庶民を「常民」と呼び、その生活伝承を研究する民俗学を確立した。
問8	答え 2 垂加神道	山崎闇斎は、朱子学の「敬」を重視する立場から、神道と儒学を融合させた垂加神道を創始した。これは君臣関係の絶対性を強調するものであり、のちの尊王思想に大きな影響を与えた。
問9	答え 2 荻生徂徠	朱子学の「理」の探求が個人の内省や道徳的自己満足に陥ることを批判し、政治や社会の制度（経世済民）を重視する立場から新たな思考の枠組みを提示した。彼は、道とは自然の「理」ではなく、人間（先王）が社会秩序を維持するために人為的に作ったものであるとし、その理解のために古典を当時の言語として客観的に研究する手法を確立した。

高校公民プリント (過去問類似)

日本の思想 No.2

名前

得点

/10

問1 第二次世界大戦後の混乱期において、戦時中の美徳や天皇制などの旧来の道徳的枠組みに依存することを批判し、人間が自らの弱さやありのままの自己を見つめ直して主体的に生きるために「生きよ、墮ちよ」と説いた、『墮落論』の著者である文学者は誰か。 (2019年 全国公立入試 類似)

1. 安部公房 2. 川端康成 3. 坂口安吾 4. 横光利一

問2 古代の日本人が神々の前で理想とした、嘘偽りや汚れがなく、包み隠さず純粋で正直な心のあり方を何というか。 (2012年 全国公立入試 類似)

1. 清き明き心 2. 清き直き心 3. 黒き汚き心 4. 明き清き心

問3 平安初期に唐へ渡って密教を体系的に学び、帰国後に真言宗を開いた僧侶は誰か。彼は、宇宙の根底に働く真理を本尊とし、身体・言葉・心の3つの働きを整える修行を通じて、この世に生きながらにして仏となる即身成仏の境地に達することができる。と説いた。 (2025年 全国公立入試 類似)

1. 最澄 2. 円仁 3. 空海 4. 円珍

問4 茶道における「一期一会」の精神を、その都度の茶事を一生に一度限りのものと覚悟して自己の最善を尽くすことと捉え、さらにこの態度を人生全般に広げて、各瞬間を一生に一度の覚悟で全力で生きることにより、無常を生命肯定の契機へと変えて充実した生が実現されると説いた、昭和期の日本の哲学者は誰か。 (2020年 全国公立入試 類似)

1. 久松真一 2. 西谷啓治 3. 九鬼周造 4. 和辻哲郎

問5 古代日本の他界観において、死は忌むべき汚れ(穢れ)としても捉えられていた。『古事記』の神話において、火の神を生んで命を落とした伊邪那美命が赴き、彼女を追ってきた伊邪那岐命がその変わり果てた姿に恐れをなして逃げ帰ったとされる、地下にある死後の世界を何というか。 (2009年 全国公立入試 類似)

1. 高天原 2. 黄泉国 3. 根の国 4. 常世国

問6 戦国時代、西日本を中心に伝来したキリスト教の信仰を受け入れ、領内での布教を保護するとともに、南蛮貿易による利益や武器・物資の入手を目指した領主たちを総称して何と呼ぶか。 (2008年 全国公立入試 類似)

1. キリシタン大名 2. 戦国大名 3. 織豊大名 4. 守護大名

問7 朱子学が説く「理」を個人の主観的な思弁にすぎないと批判し、社会を治めるための具体的な制度や規範である「道」は、古代中国の先王が制作したものであると主張して、古典の言葉を直接読み解く古文辞学を提唱した人物は誰か。 (2013年 全国公立入試 類似)

1. 新井白石 2. 荻生徂徠 3. 伊藤仁斎 4. 貝原益軒

問8 江戸時代の朱子学者である室鳩巢は、仏教徒が極楽往生を願うことを、主君や親を顧みずに自分一人の安楽を求める利己的な姿勢であるとして厳しく批判した。このような彼の思想や、日常の教訓・逸話などが記されている、彼の代表的な著書は何か。 (2016年 全国公立入試 類似)

1. 大学或問 2. 駿台雑話 3. 聖教要録 4. 語孟字義

問9 イギリス留学を経て、近代日本の急速な開化に伴う知識人の苦悩を見つめ、自己本位の個人主義を提唱する一方で、個人の自由の追求が他者との衝突やエゴイズムの自覚をもたらし、自我と社会との葛藤に直面せざるを得ない人間の姿を『それから』や『こころ』などの作品で描き、晩年には「則天去私」の境地を志向した作家は誰か。 (2005年 全国公立入試 類似)

1. 有島武郎 2. 志賀直哉 3. 夏目漱石 4. 永井荷風

問10 自己を修める方法として朱子学における「敬」の道徳的実践を極めて重視し、君臣関係の絶対性を強調した江戸時代前期の儒学者は誰か。のちに儒学と神道を融合させた垂加神道を創始したことで知られる。 (2017年 全国公立入試 類似)

1. 荻生徂徠 2. 熊沢蕃山 3. 伊藤仁斎 4. 山崎闇斎

答え合わせ・解説 No.2

問1	答え 3 坂口安吾	敗戦直後の日本において、それまでの価値観が崩壊する中で、虚飾の道徳を排して人間本来の姿に立ち返ることを主張した。著書『墮落論』において「生きよ、墮ちよ」と提唱し、既成の秩序や道徳に安易にすぎるのではなく、自らの意志で主体的に生きることを求めた。この人物は、太宰治らとともに「無頼派」と呼ばれた。
問2	答え 4 明き清き心	古代の日本人は、神々の前で包み隠さず、清らかで濁りのない正直な心で生きることを重んじた。この純粋な心のあり方は「明き清き心（明浄直き心）」や、嘘偽りのない心を示す「赤心（せきしん）」などと表現され、古代の道徳観の根幹をなした。
問3	答え 3 空海	唐で密教を学んだ空海は、帰国後に高野山を拠点として真言宗を開いた。彼は、宇宙の真理そのものである大日如来を本尊とし、身（身体）・口（言葉）・意（心）の3つの働きを仏と一致させる「三密修行」を行うことで、現世において仏の境地に達する「即身成仏」が可能であると主張した。この思想は、一切の生きとし生けるもの（一切衆生）を尊ぶ慈悲の姿勢とも深く結びついている。
問4	答え 1 久松真一	茶道における「一期一会」の精神を哲学的に探究し、茶事を一生に一度きりの機会として臨む態度を人生全般に拡張することを提唱した。この思想により、生老病死などの無常を単なる消極的な諦念や絶望として受け止めるのではなく、今この瞬間を全力で生きるという生命肯定の契機へと転化させ、主体的に充実した生を実現できると主張した。
問5	答え 2 黄泉国	『古事記』などの日本神話において、死者が赴く地下の死後の世界は黄泉国と呼ばれる。伊弉那美命が火の神を生んで亡くなった後にこの世界へ赴き、夫の伊弉那岐命が彼女を連れ戻すために訪れるが、変わり果てた姿を見て逃げ帰った。この神話は、古代日本人が死を「穢れ（けがれ）」として忌み嫌い、生者の世界と死者の世界を明確に区別しようとした他界観を示している。なお、海の彼方にあるとされる「常世国」や、天上にある神々の世界である「高天原」など、古代日本には多様な他界観が存在した。
問6	答え 1 キリシタン大名	戦国時代にキリスト教に入信した大名たちの総称。大友宗麟、有馬晴信、大村純忠などが代表的であり、彼らは南蛮貿易の利潤や先進的な技術・武器の獲得を目的として布教を保護し、自らも洗礼を受けた。彼らの中には、ローマ教皇のもとへ天正遣欧使節を派遣する者も現れた。
問7	答え 2 荻生徂徠	朱子学の「理」の探求が個人の内省や道徳的自己満足に陥ることを批判し、政治や社会の制度（経世済民）を重視する立場から新たな思考の枠組みを提示した。彼は、道とは自然の「理」ではなく、人間（先王）が社会秩序を維持するために人為的に作ったものであるとし、その理解のために古典を当時の言語として客観的に研究する手法を確立した。
問8	答え 2 駿台雑話	室鳩巢の講話や教訓を門人がまとめた『駿台雑話』には、彼の仏教批判が収められている。その中で彼は、極楽往生を願う仏教徒の心を、主君や親を捨てる利己的なものとして批判し、自己の安楽を求める心を捨てて人倫の道に尽くすことこそが聖人の教えに適うと説いた。
問9	答え 3 夏目漱石	近代的な個人主義（自己本位）の重要性を説きながらも、それがもたらす孤独やエゴイズムの自覚、そして自我と社会の要請との間の葛藤を深く見つけた。彼の作品群は、近代以降の恋愛が単なる自由の獲得にとどまらず、エゴイズムによる他者の犠牲や自己への嫌悪といった新たな精神的課題を生み出す過程を鋭く描き出しており、晩年には私心を捨てて天地自然の道理に従う「則天去私」の境地を目指した。
問10	答え 4 山崎闇斎	朱子学における「敬」を重視し、君臣関係の絶対性を強調した山崎闇斎は、のちに儒学と神道を融合させた垂加神道を創始した。藤原惺窩は仏教に疑問を持って朱子学を講じ、貝原益軒は実用的な学問や本草学を究め、佐久間象山はアヘン戦争の衝撃から「東洋道徳、西洋芸術」を唱えた。

問1 大正期に展開された女性の保護をめぐる論争において、国家による財政支援や保護を求める立場に対し、女性が国家に依存することを批判し、まずは女性自身が職業を持って経済的に自立すべきであると主張した歌人・思想家は誰か。 (2024年 全国公立入試 類似)

1. 与謝野晶子 2. 野上弥生子 3. 長谷川時雨 4. 宮本百合子

問2 江戸時代において、仏教や儒教などの先入観を排し、古典を原典に即して客観的・実証的に読解する文献学的方法を確立した。徳川光圀の委嘱を受けて『万葉集』の注釈書を著し、のちの国学の先駆者となった人物は誰か。 (2017年 全国公立入試 類似)

1. 真淵 2. 宣長 3. 篤胤 4. 契沖

問3 朱子学の思弁的な「理」の探求を批判し、『論語』などの原典に直接立ち返る学問を提唱した京都の儒学者。彼は、道徳の根本である「仁」を、特別な修行によって得られるものではなく、日常の人間関係において互いに偽りなく他者を愛し、思いやりを掛け合うことであると説いた。この人物は誰か。 (2023年 全国公立入試 類似)

1. 荻生徂徠 2. 伊藤仁斎 3. 中江藤樹 4. 山鹿素行

問4 西洋の近代化が内側から自然に発展した「内発的開化」であるのに対し、明治以降の日本の近代化は外部からの圧力によって急激に進められた「外発的開化」として指摘し、日本人が主体性を失わないために「自己本位」の確立を説いた、明治・大正期の文学者・思想家は誰か。 (2021年 全国公立入試 類似)

1. 夏目漱石 2. 志賀直哉 3. 坪内逍遙 4. 島崎藤村

問5 幕末の日本において、天道にかなう生き方とは、功名や利欲を離れて純粋な心情に徹し、己の「誠」を尽くすことであると主張した思想家がいた。彼は、主君に忠を尽くす勤皇の精神がこの「誠」の実践を通じて天道に通じると捉え、のちの尊王攘夷運動に強い影響を与えた。松下村塾を主宰し、多くの門下生を育てたこの人物は誰か。 (2012年 全国公立入試 類似)

1. 橋本左内 2. 吉田松陰 3. 横井小楠 4. 佐久間象山

問6 仏教伝来後、日本の伝統的な神々への信仰と外来の仏教信仰が融合・調和していった現象を何というか。初期には神の前で経典を読み上げるなどの行為が行われ、のちに神を仏の仮の姿とする思想へと発展した。 (2014年 全国公立入試 類似)

1. 神仏分離 2. 神仏習合 3. 廃仏毀釈 4. 神儒一致

問7 古代の日本において、神に対するとき最も重んじられた、神を欺いたり自分を偽ったりすることのない、純粋で曇りのない心のあり方を表す言葉として最も適当なものを、後の選択肢から一つ選べ。 (2019年 全国公立入試 類似)

1. 赤き直き心 2. 清き明き心 3. 清き直き心 4. 黒き汚き心

問8 主著『善の研究』において、主観と客観が対立する前の直接的な経験のあり方を重視し、自己と世界が一体となる「主客未分」の境地を説いた、京都学派の形成にも大きな影響を与えた近代日本の哲学者は誰か。 (2016年 全国公立入試 類似)

1. 三宅雪嶺 2. 西田幾多郎 3. 井上哲次郎 4. 和辻哲郎

問9 日本の思想家である和辻哲郎は、人間を単なる孤立した個人として捉える西洋的な見方を批判した。彼は、人間は他者との関係性において初めて真の自己として成立する共同体的な存在であると主張したが、このような人間のあり方を何と呼ぶか。 (2024年 全国公立入試 類似)

1. 行為的直観 2. 風土的自己 3. 歴史的身体 4. 間柄的存在

問10 宋から帰国して臨済宗を伝えた僧が著した書物で、禅の教えは国家を護り安寧をもたらすものであると主張し、比叡山などの旧仏教勢力による禅宗停止の動きに対してその正当性を弁明した著作は何か。 (2017年 全国公立入試 類似)

1. 『興禅護国論』 2. 『普勸坐禅儀』 3. 『喫茶養生記』 4. 『立正安国論』

答え合わせ・解説 No.3

問1	答え 1 与謝野晶子	平塚らいてうが女性の妊娠・出産期における国家の保護を求めたのに対し、与謝野晶子は国家への依存を批判し、女性の経済的自立を第一に主張した。この対立は当時の女性解放運動における重要な思想的論争となった。
問2	答え 4 契沖	仏教や儒教などの先入観にとらわれず、古典の言葉そのものを客観的・実証的に研究する文献学的方法を確立した。徳川光圀の依頼により『万葉集』の注釈書である『万葉代匠記』を著し、のちの国学の形成に決定的な影響を与えた。
問3	答え 2 伊藤仁斎	朱子学の抽象的な「理」の探求を批判し、『論語』や『孟子』の原典に直接立ち返る古義学を提唱した京都の儒学者は伊藤仁斎である。彼は、仁を日常の人間関係における「愛」や「思いやり」の具体的な実践として捉え、特別な修行や禁欲を必要とするものではないと説いた。
問4	答え 1 夏目漱石	日本の近代化が西洋文明の急激な受容による「外発的開化」にとどまり、内面的な発展を伴わない上滑りの状態にあると批判した。彼は、他者の評価に流されることなく、自らの価値基準に従って生きる「自己本位」の重要性を主張し、のちに「則天去私」の境地へと達した。
問5	答え 2 吉田松陰	吉田松陰は、幕末期において独自の天道観を展開した。彼は、功名や利欲を離れて純粋な心情に徹し、己の「誠」を尽くすことこそが天道にかなう生き方であるとした。そして、主君に忠を尽くす「勤皇」の精神は、この「誠」を尽くす実践を通じて天道に通じるものであると捉えた。彼の思想は松下村塾を通じて高杉晋作や伊藤博文などの門下生に受け継がれ、幕末の尊王攘夷運動の精神的支柱となった。
問6	答え 2 神仏習合	日本古来の神々への信仰と、伝来した仏教とが結びつき、融合・調和していく現象を指す。初期には神々も仏法によって救われるべき存在（迷える衆生の一つ）とされ、神前での読経や神宮寺の建立が行われた。のちに、神を仏の仮の姿とする本地垂迹説へと展開し、明治期の神仏分離令にいたるまで日本の信仰の基盤となった。
問7	答え 2 清き明き心	古代の日本人は、神を欺いたり自分を偽ったりすることのない、純粋で曇りのない心性を重んじた。これを「清き明き心」（または「清明心」）と呼び、のちの「正直」や「誠」といった日本思想における道徳観の源流となった。これは単なる道徳的な正しさだけでなく、神聖なものに対峙する際の宗教的な清浄さも意味している。
問8	答え 2 西田幾多郎	『善の研究』を著した西田幾多郎は、主観と客観が対立する前の直接的な経験である「純粹経験」を哲学の出発点とした。彼は東洋的な無の思想を取り入れながら独自の哲学体系（西田哲学）を築き上げ、のちの京都学派の祖となった。
問9	答え 4 間柄的存在	和辻哲郎は、人間（じんかん）という言葉が「人」と「間（あいだ）」から成り立つことに着目し、人間は孤立した個人ではなく、他者との関係性（間柄）の中で生きる存在であるとした。この独自の人間観を「間柄的存在」と呼ぶ。
問10	答え 1 『興禪護国論』	荣西は、禅の教えが国家を護る（護国）ために有用であることを説き、旧仏教側の批判に反論するために『興禪護国論』を著した。この著作を通じて、禅宗が国家の安寧に寄与する正統な仏教であることをアピールし、幕府などの権力者からの支持を得る契機となった。

高校公民プリント (過去問類似)

日本の思想 No.4

名前

得点

/10

問1 江戸時代の思想において、死を人間にとって如何ともし難い不可避の出来事であり、死後は善悪の区別なく黄泉国へ赴くほかはないと考えた人物は誰か。彼は、儒教や仏教などの理屈によって死の悲しみを無理に克服しようとするのではなく、死を悲しいものとしてありのままに受け入れ、そのように心得ることに安心があったとした。 (2012年 全国公立入試 類似)

1. 荷田春満 2. 本居宣長 3. 平田篤胤 4. 賀茂真淵

問2 江戸時代初期の儒学において、固定化された道德規範を批判し、個人の内なる良知に基づき、状況や立場 (時・処・位) に応じた適切な道德を実践することを重視して、日本における陽明学の祖となった人物は誰か。 (2023年 全国公立入試 類似)

1. 林羅山 2. 貝原益軒 3. 中江藤樹 4. 荻生徂徠

問3 徳川家康をはじめとする初期の将軍に仕え、幕府の儀礼や制度の整備に深く関わった朱子学者である。自己の慎みを保つ「持敬」を重視し、天と地が分かれているように人間社会にも君臣や父子などの厳然たる身分秩序が存在することは自然の理であると説き、武家支配の正当性を理論づけた人物は誰か。 (2021年 全国公立入試 類似)

1. 頼山陽 2. 室鳩巢 3. 林羅山 4. 林鷲峰

問4 ルソーの『社会契約論』を翻訳紹介し「東洋のルソー」と称された思想家であり、人民が自ら闘い勝ち取る「回復的民権」に対し、君主から与えられる「恩賜的民権」を当時の日本においては守り育てていくべきだと説いた人物は誰か。 (2017年 全国公立入試 類似)

1. 徳富蘇峰 2. 内村鑑三 3. 中江兆民 4. 植木枝盛

問5 日本の思想家である和辻哲郎は、人間を単なる孤立した個人として捉える西洋的な見方を批判した。彼は、人間は他者との関係性において初めて真の自己として成立する共同体的な存在であると主張したが、このような人間のあり方を何と呼ぶか。 (2024年 全国公立入試 類似)

1. 行為的直観 2. 風土的自己 3. 歴史的な身体 4. 間柄的存在

問6 明治政府が推進した政策に対し、地域の信仰の場である「鎮守の森」が伐採されることで、貴重な動植物の生態系や地域共同体が破壊されると主張し、エコロジー (生態学) の先駆的な視点から激しい反対運動を展開した、和歌山県出身の博物学者・民俗学者は誰か。 (2014年 全国公立入試 類似)

1. 柳田国男 2. 中江兆民 3. 南方熊楠 4. 内村鑑三

問7 近世の武士の思想において、主君への奉公を全うすることを目指し、「武士道と云ふは、死ぬことと見つけたり」という一節で、生への執着を捨てて奉公に徹する覚悟を表現した、佐賀藩の山本常朝の口述をまとめた書物を何というか。 (2019年 全国公立入試 類似)

1. 三日経 2. 風姿花 3. 五輪書 4. 葉隠

問8 江戸時代前期の思想家で、朱子学が説く「理」による厳格な道德規範を批判し、それが人間の自然な情愛を損ない、他者に対して冷酷で薄情な態度をもたらすと主張した人物は誰か。京都の堀川に私塾を開き、論語や孟子の原典に直接立ち返る方法論を提示した。 (2011年 全国公立入試 類似)

1. 山鹿素行 2. 中江藤樹 3. 荻生徂徠 4. 伊藤仁斎

問9 明治から昭和にかけて活躍した日本の哲学者は、西洋哲学の受容を超えて独自の思想体系を築いた。彼は、主観 (認識する自己) と客観 (認識される対象) がまだ分かれていない、感覚や意識の直接的な状態を重視し、これを何と呼んだか。 (2013年 全国公立入試 類似)

1. 平民主義 2. 純粹経験 3. 国民主義 4. 主客合一

問10 主著『善の研究』において、主観と客観が対立する前の直接的な経験のあり方を重視し、自己と世界が一体となる「主客未分」の境地を説いた、京都学派の形成にも大きな影響を与えた近代日本の哲学者は誰か。 (2016年 全国公立入試 類似)

1. 三宅雪嶺 2. 西田幾多郎 3. 井上哲次郎 4. 和辻哲郎

答え合わせ・解説 No.4

問1	答え 2 本居宣長	儒教や仏教などの外来思想（漢意）を排し、日本古来の精神（古道）を追究する中で、死生観についても独自の考察を行った。死を人間にとって避けることのできない悲しい出来事としてありのままに受け入れ、死後は善悪にかかわらず黄泉国へ赴くという事実をそのまま認めることに安心を見出した。
問2	答え 3 中江藤樹	江戸時代初期、幕府の正学とされた朱子学が形式化していく中で、内面的な道徳実践を重視する陽明学が受容された。この人物は、時（時間）、処（場所）、位（立場）という具体的な状況に応じて、心の中の「良知」に従って行動すべきであると説き、日本陽明学の祖と称された。
問3	答え 3 林羅山	徳川家康らに仕えた朱子学者の林羅山は、自己の慎みを保つ「持敬」や、万物の本質を究める「窮理」を重視した。彼は、天地自然に上下があるように人間社会にも君臣や父子などの厳然たる身分秩序が存在することは自然の理（上下定分の理）であり、それが幕府の法度や社会の礼儀として現れるべきであると主張して、江戸幕府による支配を正当化した。
問4	答え 3 中江兆民	フランスの思想家ルソーの思想を紹介し、自由民権運動の理論的指導者となった中江兆民は、人民が自ら獲得する「回復的民権」と、君主から恩恵として与えられる「恩賜的民権」を区別した。彼は、当時の日本の現状においてはまず「恩賜的民権」を足がかりにして民権を育てていくべきだと主張した。なお、明治初期の西洋思想受容においては、中村正直がミルの『自由論』を『自由之理』として翻訳紹介したことも重要である。
問5	答え 4 間柄的存在	和辻哲郎は、人間（じんかん）という言葉が「人」と「間（あいだ）」から成り立つことに着目し、人間は孤立した個人ではなく、他者との関係性（間柄）の中で生きる存在であるとした。この独自の人間観を「間柄的存在」と呼ぶ。
問6	答え 3 南方熊楠	明治政府による神社合祀令は、一町村一神社を原則として小規模な神社を統合・廃止しようとするものであった。これに対し、博物学者・民俗学者である南方熊楠は、神社の社叢（鎮守の森）が失われることで地域の生態系が破壊され、また地域住民の伝統的な信仰や共同体が崩壊することを危惧し、書簡の送付や論説の発表を通じて激しい反対運動を行った。これは日本における先駆的なエコロジー（生態学）運動・自然保護運動として評価されている。
問7	答え 4 葉隠	江戸時代中期、佐賀藩の山本常朝が語った内容を田代陣基が筆録した書物である。本書は「武士道と云ふは、死ぬことと見つけたり」という一節で有名であり、主君への絶対的な奉公と、死を覚悟した武士の心構えを説いている。
問8	答え 4 伊藤仁斎	朱子学の説く「理」による厳格な道徳規範が、人間本来の温かい情愛を損ない、他者に対して冷酷で薄情な態度をもたらすと批判した。彼は京都の堀川に古義堂を開き、孔子や孟子の原典に立ち返ってその真意を理解しようとする古義学（古学）を提唱した。
問9	答え 2 純粹経験	西田幾多郎は、主観と客観が対立する前の、直接的で偽りのない意識の状態を「主客未分」と捉え、これを「純粹経験」と名付けた。この思想は彼の主著『善の研究』において展開され、日本の近代哲学の出発点となった。
問10	答え 2 西田幾多郎	『善の研究』を著した西田幾多郎は、主観と客観が対立する前の直接的な経験である「純粹経験」を哲学の出発点とした。彼は東洋的な無の思想を取り入れながら独自の哲学体系（西田哲学）を築き上げ、のちの京都学派の祖となった。

問1 江戸時代中期の思想家である安藤昌益の主著で、すべての人が自ら農耕を行う「直耕」を理想とし、当時の身分制度や支配階級を厳しく批判するとともに、天地自然と人間が一体となった理想社会のあり方を説いた著作は何か。（2025年 全国公立入試 類似）

1. 統道真伝 2. 華夷通商考 3. 西域物語 4. 自然真営道

問2 室町時代に父の観阿弥とともに猿楽能を大成し、奥深く言葉に表せない情趣である「幽玄」を芸術理念とした人物は誰か。彼は、演者の魅力や芸術的境地を「花」に譬え、年齢に応じた修行や演技の心得を『風姿花伝』に著した。（2014年 全国公立入試 類似）

1. 観阿弥 2. 世阿弥 3. 音阿弥 4. 善阿弥

問3 西洋的な個人主義を批判的に検討し、人間を単なる孤立した個人としてではなく、人と人との「間柄」において自己が成立する共同体的な存在として捉える独自の人間観を提示した、『風土』や『倫理学』などの著作で知られる日本の思想家は誰か。（2024年 全国公立入試 類似）

1. 九鬼周造 2. 和辻哲郎 3. 内村鑑三 4. 吉野作造

問4 大正期に活躍した白樺派の作家であり、自己の個性を生かしつつ他者と協同して生きる人道主義の理想を掲げ、宮崎県に「新しき村」と呼ばれる共同体を建設した人物は誰か。（2025年 全国公立入試 類似）

1. 武者小路実篤 2. 有島武郎 3. 志賀直哉 4. 倉田百三

問5 古代の日本において、人々は特定の形をもたない自然物や、人知を超えた不可思議な現象そのものに畏怖の念を抱き、そこに超越的な力が宿ると信じた。このような、自然を畏れ敬うアニミズム的信仰の対象であり、のちに『古事記伝』において「尋常（よのつね）ならずすぐれたる徳（こと）ありて、可畏（かしこ）き物」と説明された、日本固有の超越的な存在を指す言葉は何か。（2018年 全国公立入試 類似）

1. ワビ 2. カミ 3. サビ 4. ハレ

問6 明治から昭和にかけて活躍した日本の哲学者は、西洋哲学の論理を用いながら東洋的な思索を体系化しようと試みた。彼は著書『善の研究』において、主観と客観が分かれる前の直接的な意識状態を重視し、のちに主客を包み込む根底としての「場所」や、万物を生み出す根源としての「絶対無」の思想へと発展させた。この哲学者は誰か。（2013年 全国公立入試 類似）

1. 和辻哲郎 2. 内村鑑三 3. 西田幾多郎 4. 吉野作造

問7 自然界（宇宙）の完璧な秩序に対して、人間が創り出す技術や社会制度などの秩序は不完全であり、常に「謬り（あやまり）」を内包しているが、その謬りを自覚し、試行錯誤を重ねていく実践のプロセスにこそ人間の創造性があると考え、『美学入門』などを著して独自の技術論を展開した、昭和期の日本の美学者・思想家は誰か。（2024年 全国公立入試 類似）

1. 丸山真男 2. 和辻哲郎 3. 鶴見俊輔 4. 中井正一

問8 本居宣長は、事柄に相応して素直に喜びや悲しみを感じる人間の自然な感情のあり方を重視し、道理を優先させて感情を無理に抑え込もうとする儒学の道徳観を批判した。宣長が『源氏物語』などの文学研究を通じて見出した、この人間本来の自然な情意のあり方を表す言葉は何か。（2016年 全国公立入試 類似）

1. もののあわれ 2. やまごころ 3. ますらおぶり 4. たおやめぶり

問9 江戸時代中期に石田梅岩によって創始された、町人のための実践的な道徳・生活倫理の学問を何というか。この学問では、儒教・仏教・神道の思想を融合させ、商業活動における利益の追求を正当なものとして肯定し、それぞれの身分が果たすべき社会的分業の重要性と、自らの職業に励むことの意義が説かれた。（2018年 全国公立入試 類似）

1. 復古神道 2. 古文辞学 3. 石門心学 4. 尊王攘夷

問10 明治中期、古河市兵衛が経営する銅山から流出した鉱毒により、渡良瀬川流域の農漁業に深刻な被害をもたらした、日本の公害問題の原点とされる事件は何か。（2012年 全国公立入試 類似）

1. 日立鉱山煙害問題 2. 高島炭鉱労働問題 3. 別子銅山煙害問題 4. 足尾銅山鉱毒事件

答え合わせ・解説 No.5

問1	答え 4 自然真営道	『自然真営道』は、江戸時代中期の思想家・安藤昌益の代表的な著作である。本書において昌益は、万人が自ら耕作して生活する「直耕」の社会（自然世）を理想とし、武士が農民から搾取る当時の封建社会を「法世」として厳しく批判した。
問2	答え 2 世阿弥	観阿弥・世阿弥の父子は、足利義満の保護を受けて猿楽能を大成した。世阿弥は、奥深く神秘的な美を表す「幽玄」を能楽の理想とし、芸術的魅力を「花」に譬えて、その修行論や演技論を『風姿花伝』などの伝書にまとめた。
問3	答え 2 和辻哲郎	西洋の個人主義的な人間観に対し、東洋や日本独自の共同体的な人間観を再評価した。彼は、人間を「人」とあると同時に「社会（間柄）」でもある二重の存在として捉え、人と人との関係性（間柄）において自己が成立すると主張した。
問4	答え 1 武者小路実篤	白樺派を代表する作家である武者小路実篤は、自己の個性を尊重し、他者の個性も重んじる人道主義の立場をとった。その理想を实践する場として、宮崎県に「新しき村」を建設し、農業と創作活動を両立させる協同生活を試みた。
問5	答え 2 カミ	古代日本における信仰の対象は、特定の形をもつ造物主のような存在ではなく、人間に畏怖の念を抱かせる自然物や不可思議な現象そのものであった。本居宣長は『古事記伝』において、これを「尋常ならずすぐれたる徳ありて、可畏き物」と定義した。これは、自然のあらゆるものに神聖な力を認めるアニミズム的な信仰に基づいている。
問6	答え 3 西田幾多郎	『善の研究』を著した西田幾多郎は、主観と客観が未分化な状態である「純粹経験」を出発点とし、のちにそれを発展させて「場所の論理」や「絶対無」の哲学を構築した。これは西洋の近代哲学（主客二元論など）を乗り越え、東洋的な「無」の思想を論理化しようとする試みであった。
問7	答え 4 中井正一	宇宙の完璧な秩序と、人間が創り出す不完全な技術的秩序を対比し、人間は「謬り」を犯しながらもそれを踏みしめて試行錯誤を重ねることで真実へと歩みを進めることができると主張した。この思想は彼の著書『美学入門』などに示されており、戦後のメディア論や図書館運動などにも大きな影響を与えた。
問8	答え 1 もののあわれ	事柄に直面したときに、心がその対象に共鳴して自然に動く情意のあり方を指す。本居宣長は、儒学が道理によって感情を抑制しようとすることを「からごころ（漢意）」による偽りであると批判し、この自然な感情の動きこそが人間本来の真実の姿であると主張した。
問9	答え 3 石門心学	石田梅岩が創始した石門心学は、町人の生活倫理を説く実践的な道徳学問である。それまで卑しいとされていた商業活動や利益の追求を、社会的な役割を分担し合う「社会的分業」の一環として肯定的に捉え、それぞれの職業に誠実に励むことが道徳的实践であると説いた。神道・儒教・仏教を融合させた平易な教えは、広く庶民の間に浸透した。
問10	答え 4 足尾銅山鉍毒事件	栃木県の足尾銅山から流出した重金属などの有害物質が渡良瀬川流域を汚染し、農作物や魚類に甚大な被害を与えた。この事件は日本の公害問題の原点とされ、田中正造らによる激しい抗議運動や、谷中村の強制廃村などの悲劇を生む契機となった。